



# 第47回北見市民大学講座

## 全受講者数四年ぶり四百人超え



「視野を広げて豊かな人生を」をモットーに、五月八日の連休明けから七月三日まで、五講座を実施しました。オホーツク管内在住で、専門分野で多彩ご活躍されている講師を招聘し、ご講演をいただきましたが、多数ご来場いただきました市民の皆さまは、大変有益で好評を得ることができました。



○第二講座《5月22日》こころと痛み

講師・愛し野内科クリニック院長 岡本 卓氏

○第一講座《5月8日》ひとりぼっちになれない〜私が漫画に込めた寂しさ〜  
講師・漫画家 田川とまた氏  
二十六歳の若さで、北見から全国に向けて作品を発信している漫画家、田川とまた氏が、漫画家として認められるまでの苦難の道を歩んできたことが、受講者に感銘

をあたえました。  
次の飛躍をめざして、現在連載中の作品「他者と孤独」について熱く語られ「人間関係における痛みや苦しみ」と、どう向き合うか描き続けている。郷土出身の若き漫画家の更なる飛躍を受講生一同願っています。

さまざま関節の痛み、癌によつて生じる痛み等々あり、不安や恐怖心が痛みを大きくすることが実証されている。慢性の痛みの「発症のメカニズム」と「破局化」について「解りやすく解説するとともに、その痛みのコントロール法として、「アクト療法」「マインドフルネス療法」を理解しやすく紹介されました。最後にクリニックのスタンプによるラフター療法（笑いヨガ）を、受講者も一緒に実践し笑顔で帰られた。



○第三講座《6月5日》美味しい牛乳を作ったら、みんなが笑顔になった〜農業に頼らない農業経営

講師・津別町有機酪農研究会 顧問 山田 照夫氏

従来からの農法で酪農経営を続けていたら、牛の健康を害し、土壌は荒れて搾乳量が減少した。その後、有機農法に切り替え、化学肥料を使わない環境にやさしい土壌作りをして、農薬も使わない有機飼料を乳牛に与えて、乳牛の糞尿も十分に発酵させて土壌に散布する循環農法を行っている。これまでなるのに、大変な苦勞と長い時間がかかった。その結果、自然

栽培の牧草を食べて、乳牛は健康になりストレスもなく牛乳の味も良くなった。  
現在には有機食品の認証を受けオーガニック牛乳として生産している。



○第四講座《6月19日》0から1をつくる

講師・一般社団法人ロコ・ソラーレ 代表理事 本橋 麻里氏

十二歳からカーリングを始め、十八歳でチーム青森に入りオリリンピックにも出場した。そのときにスエーデンの選手は家族を大切に、試合のときには競技に集中するやり方に刺激を受けた。二十三歳のときに北見へ戻り新たなチー



ム作りをした。その基本は①チーム青森のような地域に根付いたチーム ②指導者に頼るだけでなく一人一人が頭を使って考える：選手間のコミュニケーションの促進 ③実業団でなくクラブチームとする。

今後は、現チームのレベルアップとともに、次を担う若年層の選手チームを育てていくとともに、このような活動が、スポーツでまちづくりというように、地方創生に貢献していきたい。

○第五講座《7月3日》NHK学生ロボコンへの取組みと本戦での舞台裏

講師・北見工業大学機械工学教授 羽二生博之氏

NHK学生ロボコンには、平成四年に初参戦後、昨年まで十二回出場している。毎年九月に要綱が発表され、十一月までに計画書を提出しビデオ審査があるが、毎年応募数が八十校位あり出場数は二十校に絞られる。本戦前の予備審査を通過するのも大変で有る。北見工大は平成十六以降毎年のように出場している常連校になっており、技術賞、アイデア賞、特別賞二回獲得している。本戦中に予期しないマシントラブルが起きたり、操作する学生が会場の雰囲気飲まれて誤動作したりする。しかし、学生にはチームワークや異分野協調、想像力の向上等々、社会に出て役立つ良い経験となる。





第42回総合芸術祭  
(第73回きたみ市民芸術祭)

ことで、地域文化を豊かにしていく活動を展開していきます。



北見市民大学講座を、多分野にわたって五講座実施し、市民の文化意識の向上を目指して、好評のうちを終了しましたが、八月以降も各文化団体が今日まで育んできた様々な伝統文化を支援していく



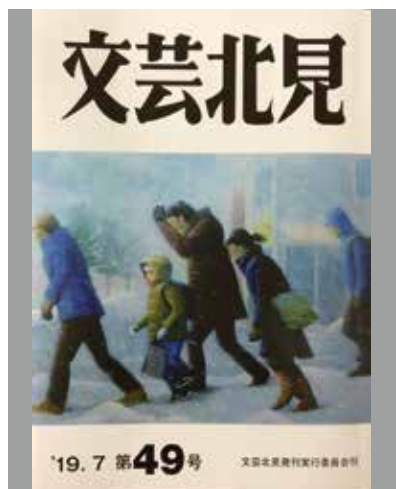
日時11月3日

- 会場／北見市民会館○舞台部門(大ホール) ○お茶会(六号室)
- ホワイエ ○展示部門、華道展(小ホール) ○絵手紙展・押花展・文芸展他(ホワイエ)
- 美術展、日時10月13日～19日

### 『文芸北見』第49号発刊

文芸北見発刊実行委員会

掲載作品数は、百五十人の作品六百九十四点(創作十編・随筆十編・詩四編・短歌百八十首・俳句四百三十五句・川柳五十五句)で二百二十頁。オホーツク地域の代表的な文芸誌として七百部発行し



た。今号は、昨年秋創立百周年記

○書道・写真展10月22日～27日(美術展、書道写真展とも会場北網圏北見文化センター)

第52回北見文化賞授賞式  
日時11月3日 午後6時

○場所 北見市民会館小ホール  
永年にわたり地域文化の向上に貢献され、著しく功績が認められる個人及び団体を表彰致します。  
新年交礼会及び第24回林白言文学賞授賞式

日時令和2年1月25日(土)

場所 北見市民会館小ホール

当文化連盟の初代会長林白言先生が、「落葉運動」と名付けた文化運動を継承発展のために設けられた文学賞である。

念誌を刊行した常呂の俳句結社「蛙声会」のあゆみを軸に地域文化の変遷を詳細にまとめた「蛙声の記憶」(小山田翠明作)などがある。

文化連盟事務所にて販売しています。書店販売は、福村書店・コーチャンフォー北見店・網走市フジヤ書店に定価1250円にて販売中です。

本誌中篇作品冒頭

ウサギ事件簿 大場 美登里

—事件ファイル1—

初めてウサギを見たのは、端野の中央保育所の年中さんか年長さんのときだった。

記憶の中のウサギは箱の中にいる。保育所にやってきたウサギをみんなで見ている。ウサギを見るために、みんなで外に並んでいる。行列の先にいるウサギが待ち遠しい。やっと自分の番が来て、箱の網に顔を近づけて見た。

「かわいいー！」

生きているウサギを生まれて初めて見るなんて、園児にとっては大事件だ。一匹の白いウサギが草を食べていた。先生が・・・

# 冬芽の魂

NPO法人北見文化連盟文化団体の活動を支援し、地域文化向上のための事業を行っています。

※北見合唱講座《北見合唱連盟》

○日時 6月29日(土)

○会場 北見芸術文化ホール

合唱の技術向上を図るため「合唱講座」を開催し、札幌市から大木講師を迎え、合唱団八団体を中心に約百名が参加し、混声四部合



楽曲「永遠の花」などを題材に指導。参加者は各パートに分かれて歌い、ハーモニーを響かせた。

※新墾北見支社詠章

豆を挽きミルク沸して気に入りの  
カップで飲めるカフェオーレうふ  
ふ 鮎田慰子

市議選に身をのり出して高らかに  
声風にのり遠く近くに  
市橋 朋子

ぼうふらのやうにと言はねど場当  
たりの得体のしれぬ老人として  
大塚 純子

父胃ガン母大腸ガン夫胃ガン今年  
は夫の十七回忌  
喜多村信子

ほの白き夏椿の花地に零れ未だ鮮  
らしいのちのかげら  
近藤 三枝

みづからの命ひとつをいとしてみて  
米寿の誉れ秋澄みわたる  
佐藤 光司

思ひ出は互ひに本読み休日を通こ  
しし午後の淡き日溜り  
中村ミチ子

白鳥は来てゐるだらうかサロマ湖  
に葱を抜きつつあふぐ秋天  
野川 幸子

そこに自動ドアがあるから幼子を  
横抱きにして荷物をさげ

福重 満江

※道学生書道展、墨遊書展で推薦

北見書道連盟の教室に通う生徒  
が、第71回北海道学生書道展の小  
学自由の部4年、第29回墨遊書展  
の課題部小学1年生部門で、それ  
ぞれ部門最高賞の推薦に選ばれ  
た。

女子児童の作品は「走」。男子  
児童は課題の中から「たこ」を選  
んだ。



写真提供：オホーツク地方の日刊フリーペーパー『経済の伝書鳩』

雪どけの水を含める庭隅に黄の色  
掲げてクロッカスの咲く  
山寺フサエ



※アサヒ北海道写真展で朝日大賞  
長井健氏(北見写真協会)作  
品「躍動の朝」が、アサヒ北海道  
写真展で最高賞の朝日大賞を受賞  
した。昨年一月、十勝管内豊頃町  
で撮影した。「ジュエリーアイス」  
を目当てに自動車を走らせ、車内  
で朝を迎えた。

夜明け前にジュエリーアイス  
撮影するため浜辺へ歩き出すと漁  
船が沖を航行、日の出と共に躍動  
的な雰囲気を感じ撮影した。